

国立公園の魅力を支える地域活動にふれる

担当教員名 高田 雅之

1 コースの概要

| | |
|------|------------------|
| 日 程 | 2014年9月5日～9日 |
| 場 所 | 北海道 利尻礼文サロベツ国立公園 |
| 参加人数 | 29人 |

2 コースの目的

利尻礼文サロベツ国立公園の優れた自然にふれながら、NPO などによる保全活動や、産業振興との共生に取り組む人々の活動現場を訪ね、対話をとおして自然の魅力を支える地域社会の在り方について考えることを目的とします。サロベツ湿原では自然再生や農業との共生について、利尻島では外来種問題や観光との関わりなどについて学びます。

3 事前学習

以下のテーマ別に5つのグループに分かれ、現状と課題を調べ、発表し合うことで問題意識の共有を行いました。

- 1) サロベツ湿原の自然と再生
- 2) サロベツの農業と観光
- 3) 利尻島の自然と観光利用
- 4) 自然を守る地域活動（NPO など）
- 5) 国立公園の管理と課題

4 行程

1日目

午後に稚内市に集合しサロベツ湿原へ。湿原センターで環境省自然保護管から国立公園の概要について、NPO サロベツエコネットワークの方からサロベツの自然とNPO活動について学んだ後、木道を歩いて直に湿原に触れました。夕暮れを海岸で過ごし、夜は星空観察を兼ねて森を散歩しました。

2日目

午前には海岸砂丘林を探検しクマゲラやヒグマの痕跡を観察したのち、砂丘林再生用のミズナラ苗畑で草むしり作業を行いました。次に山本牧場を訪ね酪農の現場と湿原との共生の取り組みについて学習し、午後は湿原の自然再生の現場を訪ね、地域で活動されている方のお話を聞きました。

3日目

ノシャップ岬からサハリンを眺めたのちフェリーで利尻島へ。ウニ採り体験と利尻昆布お土産づくり体験に分かれて海の恵みを実感したのち、岬公園や街中の「島の駅」などを散策しました。夜の「利尻塾」では利尻島自然情報センターと地域おこし協力隊の方のお話を聞き、意見交換をしました。

4日目

種富湿原にて外来種オオハンゴンソウ除去作業で汗を流した後、登山道の浸食問題について現場で学習しました。南浜湿原では木道を一周して自然観察を行い、利尻町立博物館では自然を守る上で博物館の果たす役割について学びました。また姫沼、オタドリ沼、麗峰湧水など利尻島の豊かな自然資源を訪ねました。連夜の「利尻塾」では自然ガイドと登山道補修に取り組む方のお話を聞き意見交換をしました。

5日目

利尻島に別れを告げ、稚内のメガソーラー、宗谷岬、ウインドファーム（風車）を見学し稚内空港で解散しました。

5 事後学習

事前学習で掲げた5つのテーマについて、現地で実際の自然に触れ、地域で活動する人々から直接話を聞き、意見交換した結果をもとに、各グループの学習成果をまとめ、発表を行いました。また、各参加者がこの旅で発見したこと、感じたこと、今後の大学での学習に行かせることなどについてレポートにまとめ、提出してもらいました。



利尻島の海の恵み、ウニ取り体験



外来種オオハンゴンソウ除去の格闘